

## 【防災関連】

意見の内容	市議会の考え方
海部南部消防があんなに低いところにあるようではダメだ。	海部南部消防署は昭和48年に建てられ、44年が経過し老朽化が進んでいます。また、ご指摘のとおり、消防署自体が冠水することが予測されているため改築が検討されています。その際、消防車や設備機材等の保管場所として、別棟に高所車庫を設置する予定とお聞きしております。
自衛隊などあてにできない。ハード面で補いきれない。ソフト面を充実して行くべきだ。	弥富市に起こり得る災害（海溝型地震、直下型地震、台風・風水害など）を考えたとき、本市だけでなく広域な被害となる事が予測されています。このため、公的支援が入るのは数日後になると考えられます。だからこそ、日頃からの「自分の命は自分で守る」自助を基本とし、家族や地域における互助共助の取組が大切です。議会としましても、更なる自助啓発、互助共助への支援の充実を、事前公助の役割として進めてまいります。
地震が起きたその日から怪しい他府県ナンバーの車が来る。	阪神淡路大震災、東日本大震災、最近では熊本地震でもいわゆる「火事場泥棒」が出没しているようです。警察や公的機関などは災害体制となり人命救護、人命救助、行方不明者の捜索、救出が優先となります。 熊本地震による被災地域では自治会単位で巡回パトロールを行っています。 災害後の対処訓練の中に、このような想定をして予め自警班を設立しているところもあります。 市議会としてもこれらの取り組みを進めていくべきと考えております。
応急危険度判定、倒壊危険度判断することが難しい。車中泊する理由は中に入るか入らないかの判断がつかない。	災害直後に判断することは難しいと考えます。熊本地震のような強い余震が続き、耐震基準を満たしている建築物でも危険な状態になることは事実としてあります。 地震直後、在宅避難か車中避難かは、ご自身で判断するしかありません。倒壊の不安がある場合、安全な場所で車中避難を決断することも大切です。
広域避難を検討すべきでは？	災害により考えておかなければなりません。 熊本地震のように数週間にわたり余震が続く場合、そして気象情報から風水害などで広域的に甚大な被害が予測される場合などが考えられます。 自治体間での応援協定などに組み込めないか検討してまいります。

	<p>しかし、まずは自助で考えていただくなくてはなりません。事前の自主避難が生死を分けたという事例が多数あることから、このことも含め自助意識の啓発に努めてまいります。</p>
<p>避難所をどこを選ぶか。個別の判断と、全体の判断が大事。 集落ごとに避難計画を作りたい。</p>	<p>大変重要なことです。まず「避難」について確認しておきたいのですが、「避難」とは、災害発生時、自分の命を守るため、現在いる場所が危険であり、安全な場所に移動することを意味します。</p> <p>「避難所」とは、倒壊などで自宅での生活が危険、困難、または不安な場合に身を寄せる場所の事を言います。</p> <p>「避難場所」とは、地震や津波高潮など水害により緊急に逃げないと命に危険が及ぶため一時的に避難する場所です。</p> <p>「災害が起きた！」→「避難所」ではありません。</p> <p>過去の災害をみますと、避難所での生活は過酷を極めます。また在宅避難、寄り合い避難など避難のあり方もさまざまです。</p> <p>しかし、緊急避難を要する災害の場合での「避難場所」は事前に決めておく必要があります。</p> <p>現在、市では民間の建物も含め47カ所の「津波高潮緊急一時避難場所」が設置されています。「誰が」「どこへ」は、自治会、自主防災会等で決めておくべきと考えます。</p>
<p>行政に防災を期待するが、実際は無理なんだから、自分のことは自分でやると伝えた方がいいのでは？</p>	<p>防災の基本は「自分の命は自分で守る」自助です。今後もさらに自助啓発に力点を置いて、その上で共助による地域の防災力を高める支援を推進してまいります。</p>
<p>災害後の復興についても考えていかなければならない。  大地震について市がどのような対策をするかの説明がない。</p>	<p>現在、市では近隣自治体での応援協定、遠隔地では千葉県浦安市との災害応援協定を締結しております。また自治体業務ではBCP（ビジネス・コンティニュー・プラン）の策定も行っています。議会としましては、過去の災害を教訓に防災減災、早期の復旧復興ができるよう、協議を重ねてまいります。</p>

<p>このあいだの県との合同訓練は見せるだけ。もっときちっとやってほしい。市全体の訓練をやってほしい。</p> <p>防災訓練で市民が防災意識が高くなるような訓練を。</p> <p>防災意識を高める対策を！</p>	<p>28年度、11月に行われた大規模な防災訓練をはじめ、コミュニティや自治会でやる防災訓練のほとんどは災害後対処訓練です。</p> <p>これはこれで重要な必須の訓練ではありますが、現在行っているさまざまな訓練は全て「自分が生き残っていること」が前提の訓練であることを知っておかなければなりません。</p> <p>阪神淡路大震災での死者6,434名のうち、家屋や家具の転倒、直後の火災などで死亡した方は5,512人です。</p> <p>「閉じ込められた人を救う訓練」も大事ですが、「閉じ込められないようにする訓練、対処」が大切です。</p> <p>地震でまず生き残るためには家屋の耐震、家具の転倒防止、ガラスの飛散防止、さまざまの状況でも判断できるよう状況別行動選択訓練など、でき得る限りの対地震対策訓練が必要です。</p> <p>また、台風や風水害など気象情報で予測可能な災害では、当たりはずれを恐れず、危険な状況を予測し、それを事前に避けるための自主避難訓練など、生き残るためにまず、ご自分が取り組まなければならないことをしっかり知ることが必要です。</p> <p>発災前に取り組むべき災害予防訓練と、発災後に行う発災後の対処訓練、さらに直下型地震、津波を伴う海溝型地震、台風、豪雨など災害別に行動選択する訓練も加え、生活インフラ（電気・ガス・水道など）がすべて途絶えた状態で生活することも想定した訓練も必要と考えます。</p> <p>全てその基礎は、自助・共助・公助の三助の基本、自助啓発が要であることから、議会ではそこに重点を置くべきと考えています。</p>
<p>防災計画をしっかりと立てて、この地域にはこのような施設を建てると示してほしい。</p>	<p>市内の公共施設は、災害時における避難所として指定されておりますが、多くは更新時期をむかえている現状です。日常の安全からも維持更新は現存施設が優先であると考えます。</p> <p>一次的な避難場所に関しましては、今後も民間の建物等との協定の締結を進めてまいります。</p>
<p>災害時、非常食を用意してほしい。</p>	<p>公助としての備蓄は一定数ありますが、自助として約一週間分の飲料水、食料の備蓄をお願いします。ただ、これは災害のための食料としてだけでなく、電気が止まっても保冷せず保管できる食材を日常から考えておく事でまかなえると考えております。</p>
<p>馬ヶ地避難所がない（高い建物がない）</p>	<p>現在、市内に民間の建物も含め「津波、高潮緊急時避難場所」が47カ所、52,030人分の避難場所が確保されています。</p> <p>学区別に表記しますと以下ようになります。</p> <p><b>【白鳥地区】人口 5,667人</b></p>

<p>十四山地区に高い建物がない。避難所の建設を。</p> <p>避難場所について。地域の企業との連携を</p> <p>避難場所がないので市と地域で相談してほしい。</p> <p>災害時3階まで避難しないとけない。乳児の避難はとて大変でカチャカチャが取れてしまう</p> <p>孫宝排水機場まで実際いけるか不安。シノブフーズは避難できないか？</p> <p>十四山には高い避難所がない。十四山支所に行くのに橋が壊れたらいけない。</p> <p>災害時、馬ヶ地から海翔高校へ行けない。</p> <p>南部の避難所の設</p>	<p>(避難場所) 5カ所 収容人数 5,080人 (△587人)</p> <p><b>【弥生地区】人口 11,084人</b> (避難場所) 11カ所 収容人数 7,634人 (△3,450人)</p> <p><b>【桜・日の出地区】人口 16,011人</b> (避難場所) 12カ所 収容人数 20,222人</p> <p><b>【大藤地区】人口 3,183人</b> (避難場所) 5カ所 収容人数 4,054人</p> <p><b>【栄南地区】人口 2,957人</b> (避難場所) 7カ所 収容人数 7,856人</p> <p><b>【十四山地区】人口 5,567人</b> (避難場所) 7カ所 収容人数 7,184人</p> <p>今後、避難場所となり得る施設、民間の建物も含め、増やすにしても一定の時間を要します。</p> <p>このことからまずは現状で最良の方法を考えておかななくてはなりません。</p> <p>白鳥学区、弥生学区を除いて他の学区では人口に対しての緊急時一時避難場所の確保はできています。</p> <p>問題は「誰がどこへ」を決めておかなければならないことです。</p> <p>自治会、自主防災会を中心に地域と連携しながらまず決めておくことが重要です。</p> <p>またその際には、「避難場所」へ移動する時間、経路の安全確認、第2、第3の迂回路の設定を各個人で把握しておく必要があります。</p> <p>地域での話し合いの中で決めていくことにより、移動が困難な要配慮者への対応など具体的な問題も浮かび上がってまいります。</p>
---	--

<p>置。</p> <p>大藤学区に避難所を建設してほしい。</p>	<p>自助共助で補えない部分がありましたら議会、また危機管理課等にご相談ください。</p> <p>市が設置する「津波・高潮緊急時一時避難場所」は耐震基準を満たした建物に限られます。今後も民間の建物に協力を得ながら設置箇所を増やしていくとお聞きしています。</p> <p>また、実際の津波を伴う大地震が発生した場合、耐震基準を満たしていない建物が倒壊せず残っている場合もあります。地域で基礎構造等を確認し、流されないことがある程度認められる建物も、第2、第3の地域における避難場所になり得ます。</p> <p>いずれにしましても津波を伴う大地震の場合、「生き残る」ことが大前提です。</p> <p>避難場所の特定と併せ、ぜひ地域で話し合いの場を持っていただきたいと思います。その際に必要な講話、講習等は市の「出前講座」をご利用ください。</p>
<p>市民の住まいの標高を示して欲しい。</p> <p>各町内に水位や災害マップを配布してほしい。</p> <p>住んでいる自分の家の標高を示してほしい。</p> <p>電柱に標高表示してほしい。</p> <p>津波が来るまでどれだけかかるか？</p> <p>電柱等に浸水時の予測水位を示してほしい（3.3メートル）</p>	<p>過去の災害において「アンカリングの作用」が人々の心の中で起き、避難行動が遅れてしまう事実が明らかになっています。</p> <p>「アンカリング」とは、一旦アンカー（いかり）を下ろすと、船がアンカーの鎖の長さの範囲しか動けなくなってしまうのと同じように、最初に頭の中にインプットされた数字や情報にとらわれてしまい、そのとらわれた数字を基準にして、物事を判断したり、行動や判断の自由が制限されてしまう精神傾向を言います。</p> <p>「少しでも高い所に」との思いから、市民の方々から要望も頂いております。</p> <p>市のホームページ（弥富市防災マップ）  <a href="http://www.city.yatomi.lg.jp/kurashi/1000511/1000512/1000520.html">http://www.city.yatomi.lg.jp/kurashi/1000511/1000512/1000520.html</a>  を見るとお分かりになると思いますが、市内のほぼ全域は海拔ゼロメートル以下であり、地域により標高差はあるものの、水害時、危険であるのは変わりません。</p> <p>現在は地域の防災同報無線の柱に標高表示を行っています。また公民館や公園などにも、自治会や防災会などで立てている所もあります。</p> <p>災害への意識啓発のために必要なことであると思いますが、要所へのモニュメント程度にとどめておくべきと考えます。</p> <p>議会でも関係部局と協議し、また過去の災害を教訓に「アンカリング」を起こさせないためにもご理解いただきたいと思います。</p> <p>一例をあげれば、東日本大震災で被災した各地では、50年前の津波</p>

	<p>を示す到達水位の標識が町中に掲示をされていました。</p> <p>それは地域の住民の方々の中にも無意識に刷り込まれ、東日本大震災での最初の大津波予測「大津波6メートル」の無線が流れた時、「じゃあ、ここまでは来ないね」とか「あそこまで逃げれば大丈夫」など「アンカリング」が作用し逃げ遅れてしまった方がたくさんおられた事実があります。</p> <p>県の災害予測で発表されている津波高2.8メートルから3.3メートル、到達は81分から84分とされていますが、この通りになるとの保証はどこにもありません。</p> <p>時間や津波高にとらわれず、即行動、即避難を肝に銘じてまいりたいと思います。</p>
<p>熊本地震と情報の提供。子供達にも津波の状況を伝えてほしい。</p> <p>災害時、学校の生徒の安全の確保。食料等の確保も</p> <p>学校にいる間は安心である対策を。食料・水3日分の確保を。</p>	<p>開校時に災害が起こった場合に対処するための防災教育をさらに充実させていくとお聞きしています。</p> <p>市内の各学校には指定避難所としての機能もあるため、災害用の備蓄はなされています。</p> <p>しかしそれは、避難所としての備蓄です。</p> <p>生徒を含め、市民の全てを幾日かまかなうための備蓄は、予算的にもスペース的にも限界があります。</p> <p>弥富市に起こりうる災害を考えた時、特に水害の場合は長期化する恐れがあります。</p> <p>そのためにも市民各世帯で自助の考えに立っていただき、最低3日から1週間分の備蓄をお願いいたします。</p>
<p>災害時、トイレ、紙おむつ十分備蓄されているか。ペットの対処。</p> <p>避難所にはペットの取り扱いが無理である。</p>	<p>前述しましたように、公助としての備蓄はございますが、基本、各自で備蓄する事が重要です。</p> <p>過去の災害を見ますと、当然に被災するのは人間ばかりではありません。</p> <p>今や市内のペット飼育世帯数は5千世帯を超えている現状を考えますと事前に対処法を考えておかなければなりません。</p> <p>環境衛生上、避難所にはペットの同居はできません。しかし、事前の防災訓練、避難訓練等で地域で話し合い、ペットの避難所を確保することは可能と考えます。</p> <p>ペット世帯のご家庭では、移動用のケージを用意しておくなどペット防災を考えておく必要があります。</p> <p>議会ではペット世帯への防災啓発、災害時の対処などを、愛知県と県</p>

	<p>獣医師会が災害協定を締結したのを受け、市でも連携するよう提案しています。</p>
<p>小学校低学年へライフジャケットの配布を。</p> <p>小中学校はライフジャケットを配備してあるか？</p>	<p>過去の災害記録を教訓にするならば、ライフジャケットは装着に時間がかかること、津波に流されると漂流物に当たったり、挟まれたりし負傷することから、津波はライフジャケットで浮いたら助かるものではないということは知っておくべきと考えます。</p> <p>また、ライフジャケットさえ装着すれば助かるなど、避難行動の判断を鈍らせるのであれば逆効果となってしまいます。</p> <p>津波や水害時、一定の有用性はあると考えますが、まずは避難行動を起こすことが重要です。</p>
<p>自主防災会の活性化。</p> <p>地域間格差がある。</p> <p>市内自主防災会が集まって訓練して欲しい。</p> <p>自主防災会や自治会長に意見が言いにくい。</p> <p>災害時、地域の連携を大切にしたい。</p> <p>資材を確保する。</p>	<p>大変重要な問題です。防災において「自助・共助・公助」の三助の基本は、自分の命は自分で守る「自助」です。共助の実体化が自主防災会の設立、活性化と考えれば、まず自助啓発に努めなければなりません。自助が深まれば必然的に共助へと広がります。そして共助の繋がりがさらに自助を高めます。</p> <p>議会では自助啓発と共助の繋がりを強めるきっかけ作り、場の設定などは防災減災におけるソフト面での「公助」の役割との認識から、具体的に講話の開催、出前講座の充実、地域における防災活動の支援を提案しております。</p> <p>29年度市内防災会の全体協議会を開催します。</p> <p>28年に開催した「津波避難計画策定ワークショップ」をコミュニティや自主防災会単位での開催が予定されております。</p> <p>その際には、参加した誰もが意見を言いやすい様に一定のルールを設けるよう提案しています。</p> <p>例えば「否定、断定をしない」「心の変容を受け入れる」「沈黙を大切にしたい」「書き出してつなげる」「説教しない」「同意を求めない」「評価しない」など、意見や価値観の違いを認め合い、お互いを尊重し合うルールのもとに行ないます。それによってモアベターを導き出すわけですが、これは地域で人、ご近所とお付き合いをして行く上で、あつれきや派閥を生まないためのルールでもあります。</p> <p>防災組織の設立を急ぐあまり、既存の規則や会則に基づいて役員など先行して当ててしまうと、組織維持が先行し「自主」であるはずなのに義務感に駆られ、形はできても本来の大切な役目が果たせなくなってしまいます。</p> <p>そうならないためにも、人材のすそ野を広げる自助啓発を基礎として、ルールの共有をし、それをグループワーク訓練に活かすことで互助共</p>

	<p>助の精神を養成していく、そのための環境、機会の提供、きっかけ作りが、現代の公助として必要ではないかと考えます。</p>
<p>どのぐらいの豪雨かインターネットでわかるようにして欲しい。</p> <p>雨量をわかるようにして欲しい。</p> <p>市のホームページに掲載すべきだ。</p>	<p>解析雨量・降水短時間予報に関しましては、 気象庁・防災情報をご確認ください。 <a href="http://www.jma.go.jp/jp/radame/index.html?areaCode=210">http://www.jma.go.jp/jp/radame/index.html?areaCode=210</a></p> <p>また、河川情報に関しましては市のホームページに近隣河川の情報がリンクされています。ご確認ください。 <a href="http://www.city.yatomi.lg.jp/kurashi/1000511/1000512/1001656.html">http://www.city.yatomi.lg.jp/kurashi/1000511/1000512/1001656.html</a></p>
<p>冠水時土のうを準備してとお願いしたが、自分でやってくれと言われた。</p> <p>女性だけの家族では土のうを持ってくるのは無理。毎回冠水するところは同じだから計画的に対処して欲しい。</p> <p>NHKデータ放送で木曾川の水位が出る。消防団警戒水域に達することが多い。</p> <p>各家庭に土のうを置くだとかのアイデアが欲しい。</p>	<p>最近は極端気象が頻発します。昨年のように豪雨による冠水は今後も考えられます。</p> <p>整備により改善される地域は現況調査を行い対処していきますが、排水機能を高めてもそれを上回る雨が降れば冠水してしまいます。気象情報と併せ、危険な場合は避難をお願いします。</p> <p>冠水するような雨量となった場合、市内各所で対応に追われるため、行政支援が遅れたり、直ぐに対応できない場合があります。</p> <p>土のうで防げるようであれば、現在、冠水が予測される地域に、地域の方が利用できる「土のうステーション」の設置を進めています。</p> <p>安全を確認し、共助での対応をお願いいたします。</p>

### 【公共施設関連】

意見の内容	市議会の考え方
公共施設の老朽化対策。市民の声を聞いて。	2032年から2049年までの間に老朽化更新事業のピークを迎えます。今のままでは乗り切ることが不可能。そこで事業を平準化し、計画的に取り組む必要があります。次世代に負担を残さないためにも今後、議会としても市民の皆様のご意見を伺いながらこの問題に取り組んでまいります。

### 【消防関連】

意見の内容	市議会の考え方
消防団員不足。世帯数割。現状にあってないのでは？	人口の多いところほど加入率が低いのが現状。 自治会等の協力が必要。 市全体で加入促進を支援していくことが大切と考えます。

### 【新庁舎建設関連】

意見の内容	市議会の考え方
弥富市役所、いつオープンしますか？  庁舎建設裁判の結果を市民に報告してほしい。  庁舎を早く作ってほしい。	28年11月24日、市側の全面勝訴となる判決が出ました。これを受け、市としては、3月27日に事業認定に向け、申請手続きを開始したところであります。議会としては所管の弥富市庁舎改築等特別委員会で慎重審議し、早期建設に向け努力していきます。(参考：議会だよりNo.44より) <a href="http://www.city.yatomi.lg.jp/_res/projects/default_project/_page/001/002/334/gida44.20.pdf">http://www.city.yatomi.lg.jp/_res/projects/default_project/_page/001/002/334/gida44.20.pdf</a> <a href="http://www.city.yatomi.lg.jp/_res/projects/default_project/_page/001/002/334/gida44.21.pdf">http://www.city.yatomi.lg.jp/_res/projects/default_project/_page/001/002/334/gida44.21.pdf</a>

【交通関連】

意見の内容	市議会の考え方
<p>旧155号線の歩道橋が1つしかない。自転車が渡って事故する。信号をつけてはどうか？</p> <p>ウォーキングしている人たちにも青パト参加してほしい（タクシー業者にも）。</p> <p>大藤地区の青パト強化。子供下校時は老人クラブ、夜は仕事帰りの人に。</p> <p>交通安全都市宣言をしてはどうか？</p> <p>五之三155号線上で死亡事故あり。信号機または歩道橋の対策を。</p>	<p>旧155号線について歩道橋の設置は県への要望も必要であり、市単独では難しいと思われます。自転車・歩行者のマナーに期待したいと思います。</p> <p>通学路にも指定されており、歩行者の安全確保は歩道橋で対応できるが、昨今増加傾向にある自転車事故への対応としては、信号機設置が必要。県の予算も限られているが、要望活動を積極的に支援していきたいと考えております。</p> <p>深夜、横断歩道がない箇所での死亡事故が起きました。歩行者の交通安全啓発活動も必要であると考えます。</p>
<p>イオンが明るすぎて暗いところが危なく見える。</p>	<p>イオンタウン周辺の暗いところの街灯も必要であれば自治会から市へ要望して頂ければと思います。</p>
<p>高齢者の交通事故が多いので、交通アクセスを良くしてほしい。</p>	<p>高齢層の事故については身近な方々の支援が大きな役割を果たすと考えます。車に代わる交通手段の確保が急務であると考えます。</p>
<p>きんちゃんバスのルートの見直し。</p> <p>バスの本数を増やせないか？</p> <p>運転手のマナーが悪い。</p> <p>交通の便を良くしてほしい。</p>	<p>コミュニティバスのルート見直しは地域公共交通活性化協議会にて検討されているが、根本的な見直しが必要であると考えます。</p> <p>一般質問や委員会等で、これまでもさまざま議論してきました。今後も引き続き注視し、改善を要望していきます。</p>
<p>通学路をカラー舗装してほしい。</p>	<p>カラー舗装は順次施工されています。</p>
<p>JR踏切を拡幅してほしい。</p> <p>踏切の開閉を早くできないか？</p>	<p>市も鉄道業者と協議しておりますが、難航しており進捗しておりません。引き続き協議していくよう求めています。</p>

### 【まちづくり関連】

意見の内容	市議会の考え方
<p>住宅が建ててもらえるように人口を増やしてほしい。</p> <p>住みやすい街やとみを選んでくれるにあたり、魅力づくりをしてほしい。</p> <p>観光収入を取れる街にしてほしい。</p> <p>公園に健康遊具を増やしてほしい。</p>	<p>少子化対策を取ることが急務であります。観光資源を掘り起こすことを含んで魅力づくりをしていくことにより人口増を見込んでいくとされ、観光業は今後右肩上がりの産業であるため、弥富市も観光産業に力を入れることが望ましいという意見もあります。しかし、現状ではさまざまな課題をクリアしなければならず、長期的なビジョンを持って取り組んでいくことが大切です。</p> <p>併せて、行政よりも民間の力を活用するような魅力あるまちづくりを今後支援していくべきと考えております。</p>

### 【土木関連】

意見の内容	市議会の考え方
<p>大藤学区 南部に港湾がある。働く場所がある。道路の陳情。通学路で交通量が多い。細い道路まで車が流れる。南部の発展に伴って道路整備を進めてほしい。稲元交差点のところ。危険があることを並行して行ってほしい。</p>	<p>整備を進めている。中央幹線道路や県の事業である名古屋第3環状線の早期完成が望まれ、継続的に整備を行っております。今後は更にスピード感をもって工事が行われるよう取り組んでまいります。</p> <p>稲元交差点（愛知黎明高校）の交差点は29年度中に拡幅工事完了予定とお聞きしております。</p>

【農業関連】

意見の内容	市議会の考え方
<p>一般農家生産作物の販売所の設置。 泥棒が多い。 高い野菜が盗まれるが対策は？</p>	<p>直販ができるような施設等を含んだ検討は必要と考えます。 警察のパトロール、青パト隊等啓発活動を増やしていくことが望ましいと考えております。</p>

【名古屋競馬場移設関連】

意見の内容	市議会の考え方
<p>名古屋競馬場移設において 入口のところ17haを一般に売る。 関連しての問題点、開催権・昭和30年代は もらうと良かった。今は赤字が出る。トレセンは開催権ない。2回分1億円ずつもらっていた。一定の金額が弥富に入る方法を考えては？ 建物は固定資産税の対象の問題。交渉を進めてもらいたい。 駒野の場所をどのように利用するかを考えない。港湾にも近い立地を活かしてほしい 鍋田地区の人たちの了解を取ることが必要じゃないか。競馬場ではないということで受け入れていただいた経緯がある。その点を検討してほしい。</p>	<p>開催権の取得については、将来の名古屋競馬の収支等を考慮し、検討していくべきと考えます。 いずれにしましても、弥富市にとってプラス効果が発揮できるよう県、市と一体となって取り組んでいくべきと考えます。 これを機に駒野地区を中心とした地域の土地活用を検討し、交通アクセスの向上を計り、南部地区の活性化につなげるべきと考えております。 鍋田地区の人達からは反対意見より歓迎するといった意見の方が多いと聞いております。</p>